

調査・事例収集の実施について(案)

人の誘致・移動に関するこれまでの調査等の整理から明らかにされた今後の課題等を踏まえ、本研究会における施策の検討に資するため、以下のような調査・事例収集を実施することとしたい。

1. UJIターン及び二地域居住の実例追跡調査

UJIターン及び二地域居住の経験者へのインタビューを通じて、移動の継続と終了の実例を収集し、その要因を分析する。

2. 都市の潜在的移動希望者に対する調査

都市の潜在的移動希望者にインタビューを行い、地域への移動に当たっての阻害要因や今後の課題等を分析する。

3. 人の移動の実践事例の収集

地域への人の移動の実践事例の収集とそのプロセスの分析を行い、今後地域への移動を行う人の参考としてとりまとめる。

4. 地域による人の誘致に向けての取組事例の収集

各地域における人の誘致に向けての取組事例を収集し、施策の対象者や内容別に整理し、今後の地域による施策の参考としてとりまとめる。

1. UJI ターン及び二地域居住の実例追跡調査

(1)調査の目的

UJI ターン及び二地域居住の経験者へのインタビューを通じて、移動の継続と終了の実例を収集し、その要因を分析する。

(2)調査の方法

- ・ 人の誘致活動を行っている自治体担当部署より対象者の紹介を受け、インタビューを実施する。
- ・ 地域としては、移動形態(移住・二地域居住)別に継続および終了要因を分析する必要から、都市部から遠距離にある地域2ヶ所(北海道・島根県など)、都市部から近距離にある地域2ヶ所(長野県・福島県など)を選定。
- ・ インタビュー対象者数は、継続実例が4ヶ所×2～3人＝計10人前後、終了事例が4ヶ所×1～2人＝計5人前後を想定。

(3) インタビューにおける質問事項

質問事項	項目
①属性	<ul style="list-style-type: none"> 以下の基本属性についてお答え下さい。 －年齢、性別、世帯構成、職業、出身地、前居住地
②移動先での暮らし方	<ul style="list-style-type: none"> 移動先および移動開始年 移動形態(Uターン定住、二地域居住など) 住居形態(購入、公営住宅、民間賃貸など) 家族と同居ですか、違いますか。 何かの仕事をしていますか。 地域活動に参加していますか。 移動にあたりどのような行政サポートを利用していますか。
③移動を考えたきっかけと移動の目的	<ul style="list-style-type: none"> どのようなきっかけ、または目的で移動を考えましたか。 (例: 定年、転職、健康上の問題など)
④移動地域の選択理由	<ul style="list-style-type: none"> 移動先の選択にあたってどのような要素を重視しましたか。 (例: 自然環境、交通利便性、地縁、自治体の誘致策など)
⑤移動開始までのプロセス	<ul style="list-style-type: none"> 移動開始に至るプロセスで、どのような準備を行いましたか。また、どのような行政サポートを利用しましたか。 (例: 移動先の検討のための情報収集、体験ツアー参加、住居探し、仕事探しなど)
⑥移動検討にあたっての問題と克服方法	<ul style="list-style-type: none"> 移動の検討にあたって、どのようなことが問題になりましたか。また、どのようにそれを克服しましたか。 －生活面での問題(例: 気候、生活利便性、医療・介護など) －金銭面での問題(例: 就労、住居費、移動費など) －その他の問題(例: 既存コミュニティとの断絶、家族の反対など)
⑦現状の問題点および将来的な不安	<ul style="list-style-type: none"> 移動後、問題となっていること、または、将来的な不安としては、どのようなものがありますか。 －生活面での問題(例: 気候、生活利便性、医療・介護など) －金銭面での問題(例: 就労、住居費、移動費など) －その他の問題(例: 自身および家族の健康、移動手段の制約など)
⑧国・自治体に対する要望	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験からみて、国・自治体はどのようなサポートを行うべきだと考えますか。 －情報提供(例: 地域一般情報、住居、仕事、地域活動など) －体験企画(短期滞在、職業体験)、相談窓口の設置など
○移動終了の実例に対する追加質問	
i.移動終了の理由	<ul style="list-style-type: none"> どのような理由で移動、または二地域居住を終了しましたか。 －生活上の理由(例: 気候、生活利便性、医療・介護など) －金銭上の理由(例: 就労、住居費、移動費など) －その他の理由(例: 自身および家族の健康、移動手段の制約など)
ii.移動先について	<ul style="list-style-type: none"> 現在の居住地および居住開始年

2. 都市の潜在的移動希望者に対する調査

(1) 調査の目的

都市の潜在的移動希望者にインタビューし、そのニーズの顕在化を阻害している要因や今後の課題等を分析する。

(2) 調査の方法

- ・ 地方自治体が実施している体験企画（「北海道生活体験ちょっと暮らし」「ふくしま定住・二地域居住お試しプログラム」など）や既存ニーズ調査等への参加者から移住・二地域居住等の希望者を抽出してインタビューを行う。
- ・ 対象地域としては、都市住民の潜在的移動ニーズの阻害要因や今後の課題等を多角的に分析する必要から、都市部から遠距離にある地域2ヶ所（北海道・島根県など）、都市部から近距離にある地域2ヶ所（長野県・福島県など）を選定。
- ・ ヒアリング対象者数は、4ヶ所×夫婦2～3組＝合計で夫婦10組前後を想定。
- ・ 可能であれば、複数の希望者によるグループインタビューを行う。

(3) インタビューにおける質問事項

質問事項	項目
①属性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の基本属性についてお答え下さい。 一年齢、性別（夫婦対象）、世帯構成、職業、出身地、現住所
②移動の意向・予定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動先にどのような場所を希望しますか。 ・ 移動希望先を決める要因として何を重視しますか。 （例：自然環境、交通利便性、地縁、現地の活動、自治体の誘致策など） ・ 何をきっかけに移動を考えましたか。 （例：定年退職、転職、健康問題の発生など） ・ 移動の候補先とどのような関わりがありましたか。 （例：観光（何回）、勤務（何年）、その他） ・ 希望する移動形態は何ですか （例：移住・二地域居住・その他） ・ 希望する居住形態は何ですか （例：購入・公営住宅・民間賃貸・その他） ・ 移動は、家族全員で行いますか、単身又は家族の一部で行いますか。 ・ いずれ都市に戻るならそのタイミングはいつですか ・ 移動について家族の意向は一致していますか。

<p>③移動先での暮らし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動希望先での暮らしに何を期待しますか。 (例:暮らしよい自然・居住環境、豊富な食材、観光・レジャー・ドライブ、アウトドア・スポーツ、農業・酪農・家庭菜園、地域・コミュニティ活動、スキル等が活かせる仕事、歴史・文化、生涯学習、その他) ・ 地域・コミュニティ活動への参加をご希望の場合は、その具体的な内容をお聞かせ下さい。 (例:地域活動への参加、NPO・ボランティア組織等の設置・運営、活動分野など) ・ 自分のスキル等が活かせる仕事をご希望の場合は、その具体的な内容をお聞かせ下さい。 (例:起業、企業の管理職、事業化等の支援・コンサルティング、IT 導入支援、仕事・活動内容など) ・ 仕事をお考えの場合、収入をどの程度、重視しますか。
<p>④移動に対する懸念事項(阻害要因)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動に関する懸念事項として大きい要因はどれですか。 －生活面での問題(例:気候、生活利便性、行政サービス、医療・介護、地域コミュニティに馴染めるか、その他) －金銭面での問題(例:就労、住居費、移動費、現地との交通費、その他) －情報アクセス(例:情報収集手段の制約、相談相手の不在、その他) －その他の問題(例:子供・孫・友人・知人との隔たり、既存コミュニティとの断絶、家族の反対、健康、その他)
<p>⑧国・自治体に対する要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国・自治体に対する要望として大きいことは何ですか －情報提供(例:地域一般情報、住居、仕事、地域活動) －体験企画(例:短期滞在、職業体験) －各種相談 －その他

3. 人の移動の実践事例の収集

(1) 調査の目的

地域への人の移動の実践事例の収集と、そのプロセスの分析を行い、今後、地域への移動を行う人への参考として取りまとめる。

(2) 調査の方法

- ・ 最近の傾向として、地域に移動して、その地域の活性化に貢献する人や二地域居住などの新しい移動の形態が見られるため、各種文献調査及びヒアリング等により、地域活性化貢献型の地域への移動や、二地域居住の実践事例を中心に候補を抽出する。
- ・ 各事例について、移動の実行までの経緯や、移動後の活動状況について詳細な調査を行い、そのプロセスを分析する。

(3) 事例候補となりうるものの例

・地域活性化を行う移動者(定住)の事例

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
地域活性化	夫婦 (夫 63 歳、妻 49 歳) 大分県佐伯市郊外	歯科医	「田舎暮らしの本」 2005 年 8 月(P52)
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経緯: 夫は福岡市中心部で歯科医院を開業していたが、還暦を前に、学生時代からの夢だった地域医療に従事すべく、医院を息子に託し 3 年前に妻とともに木立地区に小さな歯科医院を開業した(歯科医の中では有名人であり、日本で未普及であったインプラントの研究と臨床応用にいち早く着手し、国内だけではなく国際学会にても高い評価を得ている第一人者である)。診療日は週 4 日であり、学会などで月に数回東京や福岡市へ出かけることはあるものの、オフの日は1日中釣りをしている。・ 現在: 高齢化の進むこの地域のお年寄りから「歩いて来られる歯科ができてありがたい」と喜んでくれるのが何よりもの励みである。また、自分は役に立てるという思いが、満足感を与え、都市部とは異なる信頼関係に、求めていた医療に出会ったとの思いを強くしている。			

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
地域活性化	男性(65) 北海道霧多布	湿原保全	「田舎暮らしの本」 2005年10月(P28)
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 経緯: 東京下町で生まれ育ったが、会社の転勤で札幌赴任となる。着任後、霧多布湿原に魅了され、まず同湿原にて喫茶店経営を始める。その後地元の若者6人と霧多布ファンクラブを結成し、全国にファンを募った。霧多布湿原は、1993年ラムサール条約に登録され、同年設立された霧多布湿原センターの職員として迎えられ、その後所長となる。 現在: ファンクラブは活動を終え、NPO法人となり、若手が活動しているので、現在は任せてある状況である。 			

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
地域活性化	男性(43) 山口県	まちづくり	http://www.hitjp.com/about/index.html
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 経緯: 山口市で生まれ、地元の高校を卒業した後に東京の大学へ進み、そのまま東京の広告代理店に勤めた。その後退職し、徳山市の広告代理店に転職した後、地元を活性化する企画・制作事務所「ヒットクリエイティブオフィス」を設立する。その後「山口きらら博」の県民参加を推進、サポートするボランティア組織「きららネット」事務局長に就任。きらら博終了後も、「やまぐちのSOHOを応援する会」の理事に就任するなど、山口を活性化するサポートを全般的に行っている。 現在: 「県民活動きらめき村」のディレクション、山口市「街じゅうデニム」ディレクターにて、活躍している。 			

・二地域居住者の事例

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
二地域居住者	女性(55) 東京都⇄群馬県中之条町	春から秋までの半 定住	「田舎暮らしの本」 2006年10月(P81)
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 経緯: 1998年に中之条町の北部にある岩本地区にて山の斜面を含む土地を取得。最初は敷地内にコンテナハウスを建て、寝泊りをしていたが、2001年に定住のための住まいを建築し、夫のみ単独移住をした。妻は東京で不動産関係の仕事をしているため、平日は勤務し、毎週末夫婦の時間を過ごすために、通う。 現在: 移住者同士の交流も生まれ、横のつながりができており、生活を楽しんでいる。 			

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
二地域居住者	男性(45) 東京都三鷹市⇄長 野県茅野市	地域活性化	
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経緯:三鷹市で生まれ、地元の中学・高校に通うなど、これまで地元で生活してきた。2年前に妻の実家であることと、子供の教育上の観点から、長野県茅野市に自宅を設計、施工し、妻と子ども、自身の親をつれて移住をした。自身は、株式会社まちづくり三鷹で平日は勤務を行っているため、単身赴任となり、2時間かけて週末だけ通う生活である。 ・ 現在:現在の勤務経験等を生かし、茅野市の地域活性化を行うための行政と民間の茅野まちづくり研究会を立ち上げ、シンポジウム、協働のまちづくり等の企画立案を行っている。最近は、地域特産物としてワインづくり、2居住推進のためのプログラムづくりを行っている。茅野市は別荘地が多く、そこに定住する人も増えており、そのような人々を巻き込んだ様々な活動を行っている。 			

分類	性別(年齢)・地域	内容	出典
二地域居住者	男性(56歳) 東京都練馬区⇄群 馬県赤城	ログハウス	
<p>● 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経緯:もともと、アウトドアに興味があったが、長年構想を描いてきたログハウスを群馬県赤城山に建てることを思い立った。平日は、会社勤務を行っているため、週末や休みを利用し、4ヶ月かけて小規模なログハウスを自分で建てた。 ・ 現在:東京で仕事を行っているため、平日は東京で過ごしているが、週末は、ログハウスで過ごしている。知人を通じて富士見村村長の紹介を受けた経緯もあり、赤城山地域活性化を行うために脱都会派による赤城地域サポーターモデル(赤城地域学、セルフビルド村、地域振興のための二地域居住・交流人材誘致、国際交流など)を村長に提案を行っている。 			

(3) プロセス分析のイメージ

事例6 二地域居住③		事例の概要 ①片道2時間の週末でログハウス建設②二地域居住で地域活性化(才・男性)		
		背景	出来事	影響と効果分析
移動準備期	認知前		<ul style="list-style-type: none"> ■もともとアウトドア好きであり、毎週末に、家族とともにキャンプをしており、赤城山へたまたま行ったところ、その自然に感動する。 	
	認知	<ul style="list-style-type: none"> ■ログハウスがにわかに注目されたのを受け、分譲地を狙って、ログハウスメーカーが進出。赤城山にもショールームを建築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■赤木山の山地に、インターネットで土地が売り出していたことを発見する。さらに、分譲地の近くで、ログハウスメーカーのショールームがあり、セルフビルドの方法があると知り、意欲がわく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットによる情報発信は、購入者が気軽に見ることができるため、効果がある。
	興味		<ul style="list-style-type: none"> ■友人が、ログハウスを自分で作ったことを知り、興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ログハウスメーカーと地域自治体とのコラボレーションも、移住促進に有効である。
	比較	<ul style="list-style-type: none"> ■田舎暮らしが注目されたのを受け、自治体による人の移動促進に向けて、データベースを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■インターネットや様々な雑誌で、赤城山のことやログハウスのことを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■比較段階においても、インターネットの役割が大きい。
	行動		<ul style="list-style-type: none"> ■赤城山に土地を購入する。 ■念願のログハウスキットを購入し、片道2時間をかけて、ログハウス作りが始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■二地域居住者は、定期的に移動を行うため、移動費用等のサポートニーズがある。
移動後	<ul style="list-style-type: none"> ■地域活性化のための移住者・住民コラボレーションコミュニティ設立 	<ul style="list-style-type: none"> ■移住後、近隣に同じ世代の移住者が集まっていることを知り、交流が始まる。同時に村の人たちから、地域の活性化の活動での人手不足やスキルの不足についての話を聞く。 ■移住者の村を作ることを計画し、地元の有志とともに検討を行い、村長へ提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ■...は、公的支援を伴う 	

4. 地域による人の誘致に向けての取組事例収集

(1) 調査の目的

各地域における人の誘致に向けての取組事例を収集し、対象者や施策の内容別に整理し、今後の地域による施策の参考として取りまとめる。

(2) アウトプットイメージ（例）

都道府県	事業名 実施期間	事業内容	対象者			移動の形態			誘致の方法			PRポイント			目標 成果
			シニア層	若年者層	制限なし	移住	ニ地域居住	その他	ホームページ	セミナー	体験企画	自然・生活	地域活動	就業状況	
北海道	北の大地 への移住 促進事業 平成 17～ 18 年度	道内の受 入体制の 整備や道 外への情 報発信等 に集中的 に取り組 み、..	○			○	△		○	○	○	○			平成 18 年度 の体験企画 参加者●● 名
青森県	あおもりツ ーリズム団 塊ダッシュ 事業 平成 18～ 19 年度	モデル地 域におけ る受入体 制の整備 等	○			○			○		○	○			—
	青森へ・定 年帰農促 進事業 平成 18～ 19 年度	定年帰農 受入体制 整備、定 年帰農情 報発信、 田園風景 形成推進	○			○			○	○		○		○	目標：定年 帰農者 10 人